

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2009.9.8 現在)

埼玉県で分離され衛生研究所で確認された3類感染症である腸管出血性大腸菌は、2009年9月8日現在で71株です。感染者の内訳で見ると下痢腹痛などの症状を呈した有症状者からの分離が57株、業態者(食品営業従事者等)検便や接触者検便での無症状病原体保有者からの分離が14株でした。発症日で見たま月別の分離数では、1月から4月までは月当たり2~3株でしたが、5月に7株、6月に6株、7月に23株と分離株数が増加しています。高温多湿など腸管感染症の発生しやすい状況が今後も続くことから、注意が必要です。分離されている血清型・毒素型を表に示しましたが、O血清型ではO157が52株と最も多く、次いでO26が15株分離されています。また、OH血清型と毒素型で見るとO157:H7(VT1&2)が35株と最も多く、次いでO26:H11(VT1)が9株、157:H-(VT1&2)が8株でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2009.9.8 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	35
O157:H7	VT2	4
O157:H -	VT1&2	8
O157:H 検査中	VT1&2	5
O26:H11	VT1	9
O26:H -	VT1	4
O26:H 検査中	VT1	2
O103:H2	VT1	1
O111:H -	VT1	1
O145:H -	VT1	1
O165:H -	VT2	1
合計		71

衛生研究所では、PFGE法を用いたDNA切断パターンによる型別を行っています。9月8日現在、O157:H7 39株中38株の型別が終了し、30以上の型に分けられていますが、目立った集積性は認められません。しかし多様なパターンが存在することから、複数の感染源が考えられ、今後とも注意する必要があると考えられました。

現在、加熱用レバーやサイコロステーキ等成型肉の生食や加熱不十分による感染と考えられる事例が増加しており、これらを喫食する際には、十分加熱する事などの注意が必要です。

今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。